

令和元年度 6 学年 国語科 授業改善推進プラン

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<p>○物語の登場人物の心情を叙述に即して豊かに読み取ったり、説明文の要旨を捉え、言葉を選んで分かりやすく要約したりすることができる。 ○伝えたいことの内容や順序を整理して、相手が納得するよう、分かりやすく伝えることができる。また相手が伝えたいこと（「いつ」「だれが」「何を」「どのように」「なぜ」等）について、自分の考えや友達同士の考えを比較しながら聞くことができる。 △表現や構成を工夫しながら自分の気持ちや考えを書き表すことができる児童が多い。一方、句読点や「」、接続語の正しい使い方を十分理解できていない児童もいる。 ○字形に気を付け、丁寧に漢字を書くことができる。また、そうできるよう成長が見られた児童もいた。</p>	
<p>↓ 重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする力 ・文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける力 	
<p>【授 業 改 善 策 】</p>	<p>↓ 授業改善の手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的を明確にして学習の見通しをもたせ、書くために必要な情報を、ワークシートを用いて整理できるようにさせる。 ・構成メモを用いて考えを交流したり、書きあがった文章を互いに推敲し合ったりして、相手や目的に応じた文章が書けているか確かめながら学習を進める。
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名：この絵、私はこう見る 指導時間：6 時間 指導時期：1 1 月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや図書を利用して、お気に入りの絵を見つけ出せるようにし、その絵について気付いたことや想像したことなどについて、ウェビングマップを用いて整理できるようにする。 ・構成メモを用いて考えを整理し、意図が伝わるか、内容が十分であるか等について友達と意見交流を行わせる。 ・書いた文章について、互いに見合う場面を設定し、句読点や「」、接続語などの基本的事項を確認し合うようにさせる。また、絵と文章が合致しているか、意図したことが十分に伝わっているか等についてもアドバイスを送り合うことができるようにする。

令和元年度 6 学年 算数科 授業改善推進プラン

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<p>○文章を読み、数直線を使って図で表すことができる。 ○基本的な計算がほぼできている。 ○4月に行われた「全国学力・学習状況調査」では、正答率が全国の66.6%から約6%高く、72%であった。東京都の正答率70%から見ても、本校の児童の正答率が上回った結果になった。 △「全国学力・学習状況調査」での本校の課題の領域は「量と測定」59.6%、観点では「数学的な考え方」67.1%、問題形式は「記述式」53.3%となっている。 △自分の考えを進んで書こうとする意欲は高いが、どのように書いたら良いのか分からず、つまづいてしまう児童が見られる。</p>	
<p>↓ 重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な見方、考え方をもち、自分の考えを書くことができる。 ・自分の考えを他者に説明することができる。 ・身の回りの事象に対し、算数的な思考で処理し、筋道を立てて考えることができる。 	
<p>【授 業 改 善 策 】</p>	<p>↓ 授業改善の手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで分かったことと聞かれていることに下線を引き、言葉で式を表す活動を取り入れる。 ・解決方法を言葉で書いたり、友達の書いた考えを読み取って説明したりする活動を取り入れる。 ・身の回りの事象に対して算数を関連付け、比較検討して問題を解決する活動を取り入れる。
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名：量の単位の仕組みを調べよう 指導時間：6 時間 指導時期：2 月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「重さ」と「長さ」、「入れ物の容積」などの単位を尋ねて答える活動を設け、既習の内容を確かめる場面を設ける。 ・面積は「底辺×高さ」、体積は「縦×横×高さ」で求められ、それぞれ2つ、3つの数をかけ、単位は「m^2」、「m^3」というように2と3が付くことに気付かせ、単位の違いに注意させる。 ・簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて表したりできるよう、ノートに単位の関係を記述させる。

令和元年度 6 学年 理科 授業改善推進プラン

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○【関】問題解決学習の流れが定着しており、授業に主体的に取り組むことができている。 ○【思】多くの児童が観察・実験の結果について分析・解釈して予想の妥当性を検討したり、観察・実験の方法等について、自らの学習活動を振り返って改善策を考えたりすることができる。 ○【技】火を扱う実験等について安全に実験を行うことができている。 ○【知】これまでに勉強した基礎・基本は身に付いている。 △【思】考察についてしっかり考えることができるが、考察する際に6年生に求められている、多面的に調べる活動を通して、妥当な考えをつくりだすことに課題がある。 	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発電や蓄電、電気の変換について、電気の量や働きに着目すること ・多面的に調べる活動をとおして、「電気は、つくりだしたり蓄えたりすることができること。」「電気は、光、音、熱、運動などを変換することができること。」「身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があること。」に関する理解をするとともに、観察、実験などに関する技術を身に付けること ・電気の性質や働きについて追究する中で、電気の量と働きとの関係、発電や蓄電、電気の変換について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【授 業 改 善 策 】</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>授業改善の手だて</p>	<p><6年生の科学的思考力をさらに向上させるために></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活体験や既習事項に基づいた根拠のある予想をたてたり、それを表現したりすることが出来るようになる。予想を基に、実験方法を考えさせる。その後結果の見通しをもたせてから実験し、その結果から考察できるようにしたい。また、まとめの後はふりかえりを行い、身の回りには学習した内容や性質を利用したものがあることに気付かせる。 ・自然の事象や現象の変化や働きを規則性や関係を推論しながら調べる活動を取り入れる。 ・学習内容を日常生活の事象と結び付け、一般化し、既習事項を生かしたものづくりを行う。
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名：電気の性質とその利用 指導時間：10 時間 指導時期：2 月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りで使われている電気のことにふれながら、生活経験や既習事項を基に根拠のある予想をたてたり、それを表現したりすることができるようにする。また、結果の見通しをもたせてから実験し、その結果から考察が出来るようにする。考察する際には、友達の考えと自分の考えを比較するという交流を通して、自分の考えをより妥当な考え方にすることができるようにする。まとめの後はふりかえりを行い、身の回りには学習した内容や性質を利用したものがあることに気付かせる。 ・電気の性質を推論しながら調べる活動を取り入れる。 ・学習内容を日常生活の事象と結び付け、一般化したり、既習事項を生かしたものづくりを行ったりする。具体的には、マイクロビットと言われるプログラミングのソフトを授業中に使用する。現在校内でも研究されている、SGDs とも関連させ、手を近づけると光が消えるという省エネの勉強をさせ、エネルギー資源の有効利用という観点から、電気の効率的な利用についてとらえられるようにする。

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<p>○資料から正しく情報を読み取ったり、必要な情報を選択して読み取ったりすることができる。 ○用語の意味を正しくとらえて、正しく用語を用いてまとめたり、説明したりすることができる。 △情報を関連させ、理由や目的、それに関わる人々の願い等について考えたり、特徴についてまとめたりすることについては課題がある。 △歴史上の人物やそれに関連する出来事を正しく理解して、自分の言葉で説明できる児童がいる一方、人物と出来事の関連がつかめていない児童もわずかにいる。</p>	
<p>↓ 重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<p>歴史上の人物が当時の世の中の課題を解決し、人々の願いを実現していたことを調べたり、まとめたりしながら、人物の働きを共感的に理解できる力</p>	
<p>【授 業 改 善 策 】</p>	<p>↓ 授業改善の手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取った情報に関連して、理由や目的、それに関わる人々の願いや特徴について考えたりまとめたりできるよう問題設定や資料提示を工夫する。 ・読み取った情報から課題について考えさせる際、視点の与え方を工夫する。
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名：近代国家に向けて 指導時間：5 時間 指導時期：1 0 月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不平等条約の改正や、女性選挙権の獲得などのために、当時の人々がどのような願いや考えに基づいて行動をしたのか、提示する資料を工夫して考える視点を広げることができるようにする。 ・多面的に歴史的事象を捉えることができるよう、外国や政府の視点にも立って考えられるよう、資料提示を工夫したり、考える場面を設定したりする。

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<p>○周囲の安全に気を付けたり、友達と励まし合い、楽しみながら運動に取り組むことができる。体ほぐしの運動では、運動の行い方（人数や動き、ルールなど）を工夫したり、何度も運動に取り組んだりするなど、体を動かすことの楽しさや心地よさを十分に味わうことができた。</p> <p>○チームの記録をより高めたり、できない技をできるようにしたりするために、個人やチームのめあてを設定し、めあて達成に向けて運動の行い方を工夫したり、ポイントを意識したり、できる児童がコツをアドバイスしたりしながら運動に取り組むことができる。</p> <p>△体力テストではシャトルラン、握力、ソフトボール投げの3種目について大きな技能差があり、全体的に低い傾向であった。</p> <p>△器械運動（腕支持感覚や逆さ感覚）や水泳（浮く感覚）などの非日常的な動きを伴う領域において、運動技能の差が激しい。</p>	
<p>↓</p> <p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性に応じた基本的な技能 	
<p>【授 業 改 善 策 】</p>	<p>↓</p> <p>授業改善の手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚づくりの運動を準備運動に十分に取り入れ、動きの感覚がつかめるようにする。 ・段階ごとの身に付けたい動きを個人のめあてとして設定し、めあて達成に向けて場を工夫したり、ポイントを意識したりして運動に取り組むことができるようにする。
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名：鉄棒運動 指導時間：5 時間 指導時期：9 月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動に感覚づくりの運動（ツバメ、布団干し、足抜き等）を取り入れ、腕支持感覚とそれに伴う体の使い方の感覚を養う。 ・トリオグループの中で、互いの動きを見合ったり、ICTを用いて自分の動きを録画し合ったりして、めあてとして設定したポイントが意識できているか、自分がどのように動いているのか確認して認知を高め、動きを高められるようにする。

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<p>○意欲的に自分の考えや思いを作品に表そうとすることができる。その際、材料や用具の特徴を生かし、工夫して表現することができる。 ○資料を参考にしたり、友達作品のよい所を見つけたりすることで、それに基づき自分の思いや考えを表すことができる作品となるよう工夫することができる。 △自分の考えや思いを形に表すための技能には差があり、思いは強く、考えは豊かであっても、技能が伴わず、考えや思いを形に表すことが難しい児童もいる。</p>	
<p>↓ 重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴を基に、そこから想像力を働かせて自分なりの発想をする力 	
<p>【授 業 改 善 策 】</p>	<p>↓ 授業改善の手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・描き方に関してポイント（形や質感、奥行きなどの描き方）を明確に示したり、練習したりする場面を設定する。 ・思うように描くことができなくても、もう一度やり直すことができたり、そこから発想を広げて作品作りに生かしたりすることができるような題材を設定する。
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名：小学校生活のお気に入りのもの 指導時間：8 時間 指導時期：1 1 月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時は、お気に入りのもの（ランドセルやサッカーボール、グローブなど）の大まかな形の特徴を十分に捉えることができるよう、単純な線でラフスケッチする場面を設定する。 ・光や風などの自然環境、人の動きや場所の様子などについて自分のイメージを広げて、お気に入りのものの色づかいや形、背景に取り入れることができるよう視点を与える。

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<p>○音楽に関心をもっている児童が増え、歌唱に対しても積極的に取り組むことができている。 △恥ずかしがって声量が少なく表情が乏しい児童がいる。低音部が胸声になりがちなのが課題である。 △変声が始まり、一部の男子では音が不安定になっている。 ○課題に対して前向きに取り組むことができるようになってはきたが、集中して練習に取り組むことができた。 △器楽が好きな児童が多いが、リコーダーではタンギングや運指に個人差が大きく、楽曲編曲の工夫が必要である。 △木琴などの他の楽器の奏法には課題が残る。</p>	
<p>↓ 重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって響きのある声や音で演奏する。 ・主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむ。 	
<p>【授業改善策】</p>	<p>↓ 授業改善の手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合った教材（音域・楽曲の雰囲気）を選択し、楽曲編曲の工夫をするなど行い、意欲を引き出す。 ・きれいなハーモニーを目指して、ピアノで補助しながら正しい音程表現ができるようにする。 ・心地良い響きと豊かな表現で演奏できるように、歌詞や作品背景を理解したりさせる。 ・木琴などの楽器奏法の課題を楽譜に示し、解決に導く。
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名： 心を込めて表現しよう 指導時間： 7 時間 指導時期： 2～3 月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合った教材（音域、楽曲の雰囲気）を選択し、意欲を引き出すように、リズムや副旋律を工夫する。 ・低音部が胸声になったら音楽を止めて、確認しながらきれいなハーモニーが作れるようにする。 ・歌詞と音楽表現が結びつくように、音色や強弱等、指導を工夫する。 ・個人練習の時間などには、児童への声かけを多くし、できるだけ集中して取り組めるようにする。

令和元年度 6 学年 家庭科 授業改善推進プラン

<p>児童・生徒の 【実 態】</p>	<p>○調理実習では、用具を安全に正しく使い、役割分担し、協力して取り組むことができる。家庭でのお手伝いで身に付けたことを学習に生かしたり、学習したことを生かして家でも調理に取り組んだり、学習と普段の生活を結び付けながら学習に取り組むことができている。 ○裁縫では、正しいミシンの使い方を理解し、慎重かつ丁寧にミシンを扱い、思うように縫うことができた。 ○身の周りの整理整頓や清潔について学習したことを生かして、普段の生活でも整理整頓したり、きれいに使ったりすることができる。 △ミシンの準備の仕方を十分に理解できていなかったり、思うようにミシンを操作できなかったりする児童もわずかにいる。</p>	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基礎的な理解と、それらに係る技能 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【授 業 改 善 策 】</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>授業改善の手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・映像教材を用い、ミシンの使い方についてポイントを押さえて理解できるようにする。 ・小グループでの活動を設定し、一人一人が取り組んだり、互いに教え合ったりできる機会を保障することで技能の向上を図る。
	<p>実践する 【単 元】</p>	<p>単元名：楽しくソーイング 指導時間：8 時間 指導時期：9・10 月頃</p>
	<p>単元における 具体的な手だて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習導入時に、映像教材を用い、ミシンの正しい使い方について確認する。 ・あまりの生地や練習布などを用い、ミシンを用いて思いどおりに縫うことができるように練習する場面を設定する。 ・2 人に 1 台のミシンを用意し、ペア活動の中でお互いに確認し合いながら正しくミシンを使うことができるようにする。また保護者に学習支援の協力を仰ぎ、児童がミシンの使い方に慣れるよう指導の充実を図る。